



わっしょい!

いちのせき  
協働ニュース

2016年12月  
vol.10

# 世代の力で築く 住みよい 舞川



## 舞川地域課題対策協議会

会長：佐藤 悦郎

問い合わせ先  
電話：0191-28-2111  
舞川市民センター

### 舞川地域課題対策協議会の設立まで

舞川地域課題対策協議会（以下「課題協」）は、地域の様々な課題に取り組むことを目的として、昭和54年に設立されました。

構成団体は、行政区長、民生児童委員、農林連絡員、保健推進委員の連絡組織など15団体、全世帯が加入しており、地域住民の声にあらゆる方向から応えられるような体制として、取り組んでいます。

今回の地域協働体の設立については、現組織を解散し新たな名称の団体とすることも検討されましたが、やはり約37年間慣れ親しんできた「課題協」のままの名称で活動を続けていくことになり、平成27年6月21日の総会で設立が議決されました。

### 舞川地域づくり計画の考え方

地域づくり計画は、舞川地域の住民が主体的に話し合いを重ね、地域の問題解決、住みよい地域社会の構築を目指して地域づくりの方針を全ての住民が共有し、実践活動を行うことを目的に策定したものです。目的達成のためには、行政や各種団体との情報を共有しながら、将来にわたり、互いに尊重し、協働のまちづくりの実現に向けて努力することとしています。

計画の策定については、地域内全世帯と、幼稚園、小学校、中学校の全PTAと一部の生徒を対象にアンケートを実施し、地域づくりへの関心の高さを窺い知ることができました。

策定に当たっては、アンケート結果を基に計画策定委員13名に加え各行政区から推薦された2名の計49名によるワークショップを5回開催し、基本計画やスローガンの「世代の力で築く住みよい舞川」を決定しました。

今後の計画の推進については、地域づくり推進委員会において、実践事項を選択し、取り組んでいくこととしています。



### 事務局員の吉田真梨子さんを紹介します

平成27年10月1日から、事務局員として、舞川市民センターに勤務している吉田真梨子さんは地元舞川の出身で地域のことに詳しく、今後の協働体の要としての活動が期待されています。

#### 【ひとこと】

舞川地域課題対策協議会の事務局員の吉田真梨子です。これまで1年間地域づくりに携わってきましたが、地元なのに知らないことがたくさんあることに気付きました。舞川の魅力を発信しながら、舞川をもっと元気にできるような活動をしていきたいと思っています。



吉田真梨子さん



## 各地域の協働の取り組み

輪  
っしょい!

### たいしたもんだ長坂みらい塾

代表：鈴木 正敏

問い合わせ先  
電話：0191-47-2243  
東山市民センター



#### 長坂地区地域協働体設立 「たいしたもんだ長坂みらい塾」

長坂地区の協働体設立総会が平成28年3月12日、東山市民センターで開かれ、規約や事業計画などの議案がすべて承認され、「たいしたもんだ長坂みらい塾」(代表：鈴木正敏さん)が誕生しました。

長坂地区では地域の各自治会、団体などの代表者69人の意見を集約。「子どもも大人も笑顔あふれるまち・長坂」をスローガンに掲げ、観光資源を基点に、分野ごとの目標を定めて地域づくりを進めていきます。

東山地域では平成27年4月にいわて松川やくにたつ会(永澤源治郎会長)、田河津振興会(岩淵松雄会長)が設立されており、これで東山全地区に地域協働体が設立されました。協働のまちづくりを目指し、各地区とも理想の地域像の達成のため、さまざまな事業に取り組んでいます。

#### 城跡で愛でる中秋の名月

たいしたもんだ長坂みらい塾が主催する「中秋の名月を愛でる会」は9月15日夜、東山町の唐梅館長坂城本丸跡で行われました。日ごろ顧みられることの少ない地元の史跡に目を向け、長坂地域の将来について考える機会とするとともに、唐梅館絵巻と希望郷いわて国体の成功を祈ろうと初めて企画。地域住民約100人は、月を眺めながら地元音楽家による演奏などを楽しみました。



#### 3地域協働体による国体歓迎横断幕

たいしたもんだ長坂みらい塾、いわて松川やくにたつ会、田河津振興会が7月に初の情報交換会を開き、3地域協働体共同事業として希望郷いわて国体歓迎横断幕の製作に取り組みを決めました。横断幕は縦3m、横30mととてもビッグな横断幕。町内を巡回し、児童や住民が手形や選手への激励メッセージを書き込みました。横断幕は、東山総合体育館のエントランスホールに掲げ、県内外から訪れた人々をビッグに歓迎しました。



#### 地域協働推進員から一言

今年の5月から東山市民センターに地域協働推進員として勤務している鈴木勝市です。まちづくりのポイントは仲間づくりだと思います。地域にはいろいろな知識・技術・アイデアを持っている人がいます。これは地域の宝であり、この宝といかに関わりを持つかが重要です。いろいろな特技を生かし、多くの仲間とつながり、地域に貢献できることは生き甲斐につながるものだと思います。

4月に立ち上がったばかりですが、何もしなければ何も始まらないということで、前記2つの事業を開催しました。この事業を開催するために多くの苦勞がありましたが、関係者のご協力により実り多い事業となりました。今後も力を合わせ楽しいまちづくりを進めていきたいと思っています。



地域協働推進員の鈴木勝市さん

## 各地域の協働の取り組み

輪  
っしょい!

### 室根まちづくり協議会

会長：三浦 幹夫

問い合わせ先  
電話：0191-64-2347  
室根市民センター



平成28年10月13日 第4回生活福祉部会の様子

#### 室根まちづくりの将来像は

～集い語り「力合わせてみんなで創ろう」豊かな室根!～

平成27年10月に策定した室根地域づくり計画書では、将来像を実現するための目標として、「1. 安全で安心な暮らしができるまち」「2. 産業振興・地域資源を活用したまち」「3. 地域間・世代間の交流を通して人や文化を育むまち」を掲げています。

当協議会では、目標の柱に合わせた3部会に分かれ、目標についての課題等、意見交換をしながら実施計画の立案に向けた取り組みが行われています。

部会以外にも、健康づくりや空き家活用についてのワーキンググループも動き出し、現状や課題についてひとつひとつ真剣に話し合い、特色を生かしながら活気ある住みよい室根地域を創って行くことを目指しています。

#### 若者世代も室根地域への思いをカタチにしています

若者メンバー室愉会(むろゆかい)では、引き続き若者目線で地域づくりのための事業実施に取り組んでいます。

今年度は既に若者交流イベントや子ども・子育て世代に向けたイベントを実施しており、年度末には、自分たちの活動成果等を協議会に報告する予定です。



平成28年10月15日 ポップコーン：ミニシアターイベントの様子



## ●事業をうまく進めるためのコツ

地域協働体で地域づくり計画を策定した後は、計画に登載した事業に着手していくことになります。事業をうまく進めなければいけない!と意気込んで何から手を付けなければいいの?きつと最初にぶつかる壁です。まずは、肩の力を抜いて考えていきましょう。

## ●地域づくりに成功も失敗もない!

何か事業をして、来場者が多かったから成功、少なかったから失敗だったという評価をすることがありますが、果たしてそれが正しいのでしょうか?成果指標としての来場者数は必要なことですが、数字だけの安易な判断は適正ではありません。私たちが進めている地域づくりは、成果を生むまで時間がかかることで、課題解決するためのプロセスを大事にしていきましょう。課題解決のために費やした時間、知恵、労力、経費は、どれをとっても無駄ではなく、すべて成功と判断していいと思ってください。

## ●共感を生む事業はストーリーから!

事業は、うまく進めることよりも、何を大事にするか?がポイントです。大事にしたこと=事業をして、どんな姿になりたいのか?です。私たちが進める地域づくりは、いまある地域の課題を解決して、生活しやすい地域にしていくことなので、欲張らずにシンプルに考え、そして、事業ごとに一つのストーリー(物語)を作ってみることで、立案する側の考えの整理となり、他者への共感を生む表現とすることができます。

ちいき **地**域 **そ**だて **ひと** **人** **そ**だて  
地域づくりをサポートしています  
<http://www.center-i.org/>

**いちのせき市民活動センター**  
一関市大町4-29 なのはなプラザ4階  
TEL 0191-26-6400 FAX 0191-26-6415

**いちのせき市民活動センターせんまやサテライト**  
一関市千厩町千厩字町149  
TEL 0191-48-3735 FAX 0191-48-3736

## 事業立案の6つの要素

- 目的: 取り組まなければいけない課題と達成したい姿
- 手段: 取り組む内容
- 工程: スケジュールと役割分担
- 資源: 活用する資源(ヒト・モノ・カネ)
- 責任者: 進捗管理を行う人
- 期限: いつからいつまで

## ●事業と事業資金

何か事業を行おうとするとお金が発生します。地域づくりの事業におけるお金は、会費やサービス対価、支援者からの寄付、助成金や補助制度などがありますが、そのお金の使い方は自由に使えるものではありません。課題解決や公共事業のために使う誰かのお金だからです。事業ごとにそのお金の使い方を計画し、効率よく、効果的に使う必要があります。

## これからどうなる? 我がまちのこと

# 一関市地域協働推進計画

## 第2回

## 登場人物



一関 ヒロシ  
この地区の  
自治会青年部長



自治会長

## 2つの「協働」の創出

### 「地域社会の協働」

地縁でつながる様々な市民、地域組織、市民活動団体、民間事業者(企業)等が連携するネットワークをつくり、互いに支え合い、協力していくことや地域の将来像を地域全体で共通認識し、身近な課題の解決や地域の特性を活かした活動を地域ぐるみで実践していくことを目指します。

### 「地域と行政の協働」

地域の特性を活かした地域づくりと、地域のニーズを明確にすることにより、地域と行政の役割分担のもとに市民が必要とする公共サービスを効果的、効率的に提供されることを目指します。

このように、市では、地域社会内における協働と、地域と行政との協働という2つの協働を創出することを目指しています。

次ページのお話をごらんください ⇨

## 地域協働とは

「地域協働」とは、「地域の自治会(民区、町内会、集落公民館等を含む。)、消防団やPTAなど各種団体、市民、民間事業者(企業)等の多様な主体が、一定の地域において互いに、または行政と、地域の特性や課題などを共有した上で、役割を分担しながら、地域課題の解決や地域の実情に沿って地域づくりを進めること」をいいます。

## 地域協働の目指すもの

### 「支え合いの仕組みが実践される住みよい地域社会」を創る

「協働のまちづくり」を進めるためには、少子高齢化や人口減少など社会環境が大きく変わりつつあり、また、公共に対する住民ニーズが多様化してきている今日の社会において、市民、各種団体、企業、行政など多様な主体が創意工夫をし、ともに行動することが大切です。

地域協働は、すべての人が地域を支え、創る一員となり、相互の連携強化と創意工夫により様々な「協働の形」を作り、行動することにより「支え合いの仕組みが実践される住みよい地域社会」を創ることを目指します。

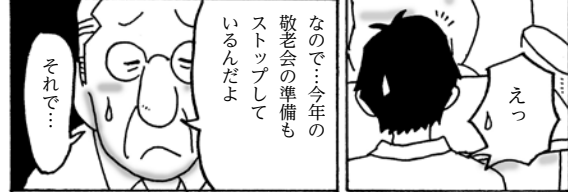


# No.2 祭りはできても



**ポイント解説** ヒロシさんは、どうにか今年の夏祭りを行うことができましたね。ですが今年のスタッフの人数がギリギリの状態だっただけに、来年どうなのかが心配されます。今、どのような取り組みが求められているのでしょうか。

# No.3 さらに秋..



**ポイント解説** 夏祭りがひと段落したと思ったら、秋になってヒロシさんの役割はさらに増えてしまったようです。敬老会も無事どうにか行うことができましたようですが、今後のことを考えると、心配が残ります。近年では、自治会等の役員と、地区内の別な団体の役員を掛け持ちしている方が多いとの声も聞かれます。

〈つづく〉